



## INDEX

- 私サイズの園芸療法.....1
- 設計ノート.....3~6
- Topics.....6
- リュック流ガーデン講座.....7~8
- 2002年 秋の・主・な・新・商・品...9
- 提案営業の現場から.....10
- 御庭会通信.....裏表紙
- 御庭会スタッフ紹介.....裏表紙

表紙:村西恵津氏/イラストレーター・デザイナー  
 インテリア・生活小物デザイン等幅広く制作活動...2000年九州・沖縄サミットでは、公式贈答品となった扇子の挿し絵を手がける。

### 私サイズの園芸療法

グロッセ世津子氏

## 医療施設と園芸療法 最終回

—癒しの環境となるために—



写真4 庭でボランティアの方と、フラワーアレンジを楽しむ患者さん。

最終回は、医療施設における園芸療法の実例についてお話しします。まず、アメリカ、オレゴン州のポートランドにあるレガシー・ヘルス・システムが経営するリハビリ病院の屋上庭園です。5年前に訪問し、実際のセッションの様子を見学させていただきました。専従の園芸療法士によるセッションの他に、理学療法、作業療法、言語療法でも園芸を利用しています。ウイルス性の感染症にかかり体が麻痺した患者さんが、3週間の入院治療後外来で理学療法を受けています。現在、歩行バランスの訓練を受けていて、この日は杖で体を支えながら、高い花壇(立ち姿勢や車椅子からでも作業できる)の植物に水をあげるという内容でした(写真1)。目的は、バランスを保ちながら歩くということですが、ただ歩くのではなく植物に水をやるという目的を訓練に持たせることができるというのが、園芸療法の一番の特徴でしょう。その目的に興味を持ちたり熱中できることで、訓練も有意義で楽しく、リラックスできるものになります。

脳卒中で、右半身麻痺と失語症になった患者さん(写真2)。ガーデニングが好きという点に注目して、植物の名前をボード



写真1 理学療法で、水やりをしながら歩行バランスの訓練を受ける患者さん。



写真2 病院で育ったハーブを家に持ち帰る今日退院の患者さん。



写真3 ポトスの挿し芽を終えて、園芸療法士から育て方を教えてもらう患者さん達。

に書いて、それを実際に庭の中から見つけるという認知能力の訓練と五感を刺激する=神経を刺激するということと、退院後の余暇を家に持ち帰るという治療を目標に、ローズマリー、アップルミント、ペパーミントを育てるというケアプランが立てられました。退院後、家でガーデニングに戻る=慣れているものに再会する=不安を緩和する、植物の香りを嗅ぐ=深呼吸する、楽しむ=心配や不安をコントロールするという効果もねらったことです。園芸は、記憶力のチェックに役立つと同時に、一連の作業を順序立てて行うという思考の組立の訓練にも効果的で、「植物は、万国共通語です」と、この言語療法士さんはおっしゃっていました。作業療法士の方は、日常生活動作訓練の一環として、園芸は主に細かい動作から大きな動き、関節の動く範囲、バランス、目と手の協調など運動機能の維持改善に効果的で、家でも継続できることも利点としてあげています。この病院には、セラピストと患者さんと造園家が協力して作ったセラピー&レクリエーション用の大きな庭、小児病棟に併設する子供のための庭など、他にもたくさんあります。

この病院の園芸療法士によるセッションの様子です(写真3)。

患者さんは、認知機能の改善を治療目標として週3回、1回1時間セッションを受けています。自己紹介から始まり、園芸雑誌から好きな花を選んでみんなに紹介する、ポトスの挿し芽をする、植物の名前を思い出してラベルに書く、ラベルを鉢にさして水やりをするという内容です。自己紹介やポトスと書くことによって記憶のチェックをし、セラピストの指示を理解し実行できること、参加者同士のコミュニケーションを促すことを目標にしているプログラムです。

2年前に訪問したオランダ、ブレダにあるアエニアスという老人専門の短期・長期療養施設のセラピーガーデンです(写真4)。身体障害、老人性精神病、老人性痴呆症、アルツハイマー病などを患うお年寄りがケアを受けています。やはり、セラピストと造園家の協力で作られた庭です。余暇としてガーデニングを楽しむ、作業治療とレクリエーション・セラピーのセッションでガーデニングや園芸作業をする、理学療法で歩行やバランスの訓練を受ける場です。患者さんと家族と一緒に時間を過ごす場、スタッフが休憩時間にくつろげる場にもなっています。歩行訓練のために、芝生あり、砂利道あり、色々な素材を使った通路あり、車椅子で越えなければならないデコボコあり、幅とか高さの異なる踏み段の階段ありという、一歩外に出ると待っているような環境が設定されています。

園芸作業は、治療を受けているというより、植物を育てるという「ふつう」の行為、熱中できる行為、植物の成長=明日への期待につながる行為となります。そして、植物は、美しい花とおいしい野菜や実となって、私たちの世話に応じてくれます。それは、自分自身を喜ばせてくれる、人からほめられる、人と分かち合うことのできる「種」を新たに蒔いてくれます。自分から生み出すものはもう何もない、こんな状態になってもう役に立たない、朝目をさまして何もうやることがない、明日への希望が持てないなど、病気や障害の結果として失われた希望、有用感、自信、自尊心、気力といったものを取り戻す大きなきっかけになってくれるのです。そして、文字通り「話の種」が生まれます。病院にも「一粒の種」が蒔かれることを祈って...